



令和5年度
学生募集要項
入学案内

歯科学専攻
博士課程(歯学履修課程)
(令和5年10月入学者用)

| | |
|--------|-----------------------------------|
| 出願受付期間 | 令和5年6月5日(月)~6月9日(金) 【期限厳守】 |
| 入学試験 | 令和5年7月7日(金)※ |
| 合格者発表 | 令和5年7月20日(木)※ |
| 入学日 | 令和5年10月1日 |

| | |
|-----------------------------|-----------------------|
| 出願資格審査 申請受付期間 (該当者のみ) | 令和5年5月22日(月)~5月26日(金) |
|-----------------------------|-----------------------|

※ 新型コロナウイルス感染症の状況によって入学試験実施日及び合格発表日の変更もあり得る。

東北大学大学院歯学研究科

学生募集要項

1 アドミッション・ポリシー(入学者選抜方針)

東北大学大学院歯学研究科は、歯学・歯科医療・口腔保健に関する高度な専門的知識・技能とそれらを支える感性並びに人間的基礎を有し、社会的ニーズを敏感に察知するとともに、自ら問題を発見し、歯科領域に関する諸問題の解決を具体的に推進しうる研究者、高度職業人の育成を目指します。

具体的には、感性並びに人間的基礎に支えられた専門的知識と技能をもって社会に貢献しうる高度職業人、さらには歯学の新たな発展に貢献する研究者を志す人を求めます。

このため、学生の受け入れにあたっては、一般選抜、社会人特別選抜試験及び外国人留学生特別選抜試験の枠を設けて入学試験を実施し、これらの教育理念・目標に沿った研究を行うために必要な高い能力と資質を備えているか否かを重視して選抜を行います。

博士課程:

博士課程では、歯学を学ぶ強い意欲と優れた能力と共に、幅広い視野と柔軟な感性を持ち、「臨学一体」の基本理念のもと、独創的、先端的、学術的、萌芽的研究を推進しうる人を求めます。

一般選抜試験では、筆記試験で専門分野にかかる基本的な知識と理解力を、外部検定試験で英語の読解力を、面接試験の結果、志願理由書および成績証明書で、特に歯学を学ぶ強い意欲と優れた能力および幅広い視野と柔軟な感性を総合的に評価すると共に、それぞれの試験結果をほぼ同等の比重で評価し、入学者を選抜します。

社会人特別選抜試験では、筆記試験で専門分野にかかる知識と理解力を、外部検定試験で英語の読解力を、面接試験の結果、志願理由書および成績証明書で、特に歯学を学ぶ強い意欲、幅広い視野と柔軟な感性を総合的に評価すると共に、それぞれの試験結果をほぼ同等の比重で評価し、入学者を選抜します。

外国人留学生特別選抜試験では、筆記試験で専門分野にかかる基本的な知識と理解力を、外部検定試験で英語の読解力を、面接試験の結果、志願理由書および成績証明書で、特に歯学を学ぶ強い意欲と優れた能力を総合的に評価すると共に、それぞれの試験結果をほぼ同等の比重で評価し、入学者を選抜します。

なお、入学前に英語の読解力と表現力を身につけておくことを希望します。

2 専攻、講座、専攻分野等及び募集人員

| 専攻 | 講座等 | 専攻分野等 | 募集人員 |
|-------------|------------|------------|---|
| 歯 科 学 | エコロジー歯学 | 口腔生化学 | 若干人 (一般選抜、 社会人特別選抜、 外国人留学生特別選 抜を全て含む) |
| | | 口腔微生物学 | |
| | | 口腔分子制御学 | |
| | | 歯内歯周治療学 | |
| | | 歯科保存学 | |
| | 地域共生社会歯学 | 国際歯科保健学 | |
| | | 歯科法医情報学 | |
| | | 予防歯科学 | |
| | | 小児発達歯科学 | |
| | | 顎顔面先天異常学 | |
| | 病態マネジメント歯学 | 顎口腔矯正学 | |
| | | 口腔生理学 | |
| | | 歯科薬理学 | |
| | | 口腔病理学 | |
| | | 歯科医用情報学 | |
| | | 顎顔面口腔再建外科学 | |
| | | 顎顔面口腔腫瘍外科学 | |
| | | 歯科口腔麻酔学 | |
| 総合診療学 | | | |

| | |
|-------------------------|------------------------|
| リハビリテーション歯学 | 口腔器官解剖学 |
| | 顎口腔組織発生学 |
| | 歯科生体材料学 |
| | 顎口腔機能創建学 |
| | 口腔システム補綴学 |
| | 分子・再生歯科補綴学 |
| | 加齢歯科学 |
| イノベーションリエゾン歯学 | 国際連携イノベティブ歯学 |
| | 共創歯学 |
| 地域医療支援部門 ^{※1} | 地域口腔健康科学 ^{※6} |
| 口腔腫瘍病態学 ^{※2} | 口腔腫瘍制御学 |
| | 機能画像歯科学 |
| 新生体素材学 ^{※3} | 生体融合素材学 ^{※6} |
| | 生体機能素材学 ^{※6} |
| 生体再生歯工学 ^{※4} | 生体再生歯工学 ^{※6} |
| 口腔免疫病態制御学 ^{※5} | 口腔免疫病態制御学 |
| 長寿口腔科学 ^{※5} | 長寿口腔科学 |

※1 東北メディカル・メガバンク機構、※2 協力講座(加齢医学研究所)、※3 協力講座(金属材料研究所)、※4 協力講座(医工学研究所)、※5 連携講座

※6と付された分野は今回は募集しません。

3 出願資格

- ◎ 一般選抜に出願できる者は、次の(1)～(9)のいずれかに該当する者とします。
- ◎ 社会人特別選抜に出願できる者は、本大学院歯学研究科入学時に、官公庁、病院、診療所、企業等に既に就業している者又は大学等卒業後2年以上の社会経験を有する者で、次の(1)～(9)のいずれかに該当する者とします。
- ◎ 外国人留学生特別選抜に出願できる者は、外国人留学生及び外国の大学において学校教育を受けた者で、かつ、日本国籍を有しない者で、次の(1)～(9)のいずれかに該当する者とします。

なお、出願資格(6)～(9)に該当する方は、事前に出願資格審査が必要となりますので、「[注]の3～4」を参照し、必要な手続きを取ってください。

- (1) 大学の歯学、医学、薬学又は獣医学を履修する課程を卒業した者及び令和5年9月までに卒業見込みの者
- (2) 外国において、学校教育における18年の課程を修了した者及び令和5年9月までに修了見込みの者
- (3) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における18年の課程を修了した者及び令和5年9月までに修了見込みの者
- (4) 我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における18年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和5年9月までに修了見込みの者
- (5) 修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を修了した者及び令和5年9月までに修了見込みの者で、本大学院において、大学の医学、歯学、薬学または獣医学を履修する課程を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者等、昭和30年4月8日文部省告示第39号により文部科学大臣の指定した者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校(その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。)において、修業年限が5年以上である課程を修了すること(当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修

了することを含む。)により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和5年9月までに授与見込みの者

- (7) 大学の歯学、医学、薬学若しくは獣医学を履修する課程に4年以上在学した者、外国において学校教育における16年の課程(歯学、医学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)を修了した者、外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は我が国において、外国の大学の課程(その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。)を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和5年9月末日までに在学又は修了見込みの者で、所定の単位を優秀な成績をもって修得したものと本大学院において認めた者
- (8) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第102条第2項の規定により他の大学院(歯学、医学、薬学又は獣医学を履修する課程を含むものに限る。)に入学した者であって、本大学院においてその教育を受けるにふさわしい学力があると認めた者
- (9) 本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和5年9月末日までに24歳に達する者

- [注]**
- 1. 出願資格(1)、(5)、(7)及び(9)における「大学」とは、我が国における6年制大学を指します。
 - 2. 出願資格(5)について、我が国において、修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を修了した者及び指定の期日までに修了見込みの者については、事前の出願資格審査は要しません。
 - 3. 出願資格(6)については、課程を修了した大学が、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた大学であるかを事前に確認する必要がありますので、出願資格審査申請前に本研究科教務係へ問い合わせてください。
 - 4. 出願資格審査申請希望者は、所定の様式を以下のウェブサイトからダウンロードのうえ、下記期間中に申請してください。

・出願資格認定申請書(様式) <http://www.dent.tohoku.ac.jp/examinate/graduate/>

・出願資格審査申請受付期間 令和5年5月22日(月)～5月26日(金)

4 出願手続等

インターネット出願のおおまかな流れは、次のとおりです。

1 募集要項の確認・必要書類の取得



- ・本募集要項で、出願資格（2～3ページ）や出願に必要な書類（5～6ページ）等をよく確認してください。
- ・出願書類の「卒業（見込）証明書」、「成績証明書」等の証明書類は、事前に在籍（出身）大学等に発行を依頼してください。

2 検定料の支払い



- ・本募集要項6ページの指示に従い、ATM(金融機関、コンビニエンスストア)やインターネットバンキング等をご利用のうえ、指定された銀行口座に振り込んでください。支払う際には所定の手数料がかかります（志願者負担）。
- ・振込後、ATMの利用明細（写）、インターネットバンキングの振込完了画面のコピー等、振込先口座情報、金額、振込日、振込依頼人名等がわかるものを「検定料納付確認書」に貼り付け、その他の書類に同封し提出してください。

【注】出願登録、検定料の納入だけでは、出願したことになりません。

3 出願登録サイトで出願登録



- ・The Admissions Office のウェブサイトアクセスし、アカウント作成後、志願者の情報等の必要事項を入力してください。<https://admissions-office.net/>
- ・写真データのアップロードも出願登録時に行います。
- ・**登録後は、登録した内容は変更できません。**登録するときは、誤りのないように、確認しながら慎重に行ってください。
- ・一時保存の機能がありますので、確認などに有効に利用してください。

出願手続は、検定料の納入を経て、インターネット上で出願情報を登録することで完了します。検定料納入、またはインターネット上で出願情報の登録のみだけでは出願手続が完了しませんので、注意してください。

出願は指定のオンライン出願システム The Admissions Office (以降、TAO と表記します。)を使って、下記の手順に従い、出願期間内に出願手続きを行ってください。

また、下記に必要書類を掲載しておりますので、オンライン出願システム TAO 登録後に、必要書類を取りそろえ、出願期間中に本研究科教務係(8ページ参照)に提出してください。ただし、郵送する書類は必ず書留とし、封筒の表に「大学院博士課程入学志願関係書類在中」と朱書きしてください。

【方法】

1. 下記 URL にアクセスし、会員登録をクリックするとアカウント作成の画面が出ますので、必要事項を入力してアカウントを作成してください。
<https://admissions-office.net/portal>
2. アカウント作成後、上記 URL からメールアドレスとパスワードを入力してログインし、「募集検索」メニューを利用し「東北大学/歯学研究科」を検索し、TAO システム及び下記の指示に従って出願してください。
3. 出願に必要な書類は、以下の表のとおりです。TAO システムに入力またはアップロードする書類と郵送で提出する書類がありますので注意してください。なお、TAO システムへのアップロードの際に使用できるデータは、PDF ファイルまたは画像ファイル(png, jpg, jpeg 形式)に限ります。

・出願期間 令和5年6月5日(月)～6月9日(金)【期限厳守】

| 書 類 等 | 備 考 |
|--------------------------|--|
| 成績証明書 ※ | 最終出身学校長が作成し、厳封したもの。本学歯学部出身者及び出願資格認定者は提出不要です。 (要郵送等) |
| 卒業証明書 ※ または卒業見込証明書 | 最終出身学校長の発行する卒業(見込)証明書。本学歯学部出身者及び出願資格認定者は提出不要です。 (要郵送等) |
| 写真データ | 志願者本人の写真をTAOの出願登録サイトでアップロードしてください。出願前3か月以内に撮影した上半身無帽、正面向きであること。使用できるデータは、jpeg または png 形式のもので 100KB～5MB のサイズのものに限ります。 |
| 英語の外部検定試験の スコアシート(原本) | <p>入学試験実施日から過去3年以内に受験した TOEIC®Listening & Reading TEST、TOEFL-iBT®TEST、IELTS (アカデミック・モジュール)、Duolingo English Test のいずれかのスコアを証明する書類(スコアシート)を提出してください。(要郵送等)</p> <p>※ 団体受験用の TOEFL-ITP®TEST、TOEFL-PBT®TEST 及び TOEIC-IP®TEST は認めません。</p> <p>※ TOEIC®TEST は、Official Score Certificate (公式認定証)のオリジナル、TOEFL®TEST は、Examinee's Score Record (受験者用控えスコア票)のオリジナル、IELTS は、IELTS 公式の成績証明書(Test Report Form)のオリジナルを提出してください。</p> <p>※ 出願時に英語の外部検定試験のスコアシートを提出することを原則としますが、出願時に提出が間に合わない場合は、試験日まで提出してください。</p> <p>なお、試験日までスコアシートの提出が間に合わない場合は、本研究科教務係にご連絡ください。</p> <p>TOEFL, TOEFL iBT, TOEFL ITP および TOEIC はエデュケーション・テストング・サービス(ETS) の登録商標です。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>検定料30,000円を納入期限までに指定金融機関にお支払いの上、「検定料納付確認書」(所定用紙)を提出してください。</p> | <p>①下記 URL から所定の検定料納付確認書をダウンロードしてください。 https://www.dent.tohoku.ac.jp/examine/graduate/index.html</p> <p>②入学検定料は、ATM(金融機関、コンビニエンスストア)やインターネットバンキング等をご利用の上、下記により納入してください。 金額:30,000円 納入期限:6月9日(金)【期間厳守】 銀行:三菱UFJ銀行 銀行コード:0005 支店 :わかたけ支店 支店コード:809 預金種別:普通 口座番号:2259181 口座名義:国立大学法人東北大学 カナ:ダイトウホクダイガク ※振込依頼人名は、次のとおり登録してください。 1次募集:「DDA ○○○○(受験者本人のカナ氏名)」 2次募集:「DDB ○○○○(受験者本人のカナ氏名)」 (要郵送等)</p> <p>③本学大学院修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を令和5年9月修了見込みの者は、不要です。 災害の被災者に対する入学検定料の免除については、次のウェブサイトをご参照ください(5月上旬掲載予定) http://www.dent.tohoku.ac.jp/examine/graduate/index.html 国費外国人留学生及び入学検定料免除申請者は、納付不要です。</p> |
| <p>受験許可書(所定用紙) 在職証明書(様式任意) (社会人のみ)</p> | <p>社会人特別選抜による入学志願者のみ提出してください。(要郵送等)</p> |
| <p>志願理由書</p> | <p>関心をもつ分野、研究計画、将来の目標等についてA4判用紙に1,000字程度(英語の場合は2,500字程度)にまとめたものを提出してください。(要郵送等)</p> |
| <p>住民票 または在留カードの写し (外国人のみ)</p> | <p>本邦に在留している外国人(在留期間が90日を越えない者を除く)で入学を志願する者のみ、提出してください。(要郵送等)</p> |

※ 結婚等で証明書と現在の姓が異なっている場合は、姓変更の証明(戸籍抄本等)を提出してください。

注意事項

- (1) 希望する研究がその分野でできるか確認するため、出願前に必ず志望分野教授に連絡を取ってください。
- (2) 出願に記載すべき事項の記入もれ、その他不備がある場合は、出願を受理しないことがあります。
- (3) 記載事項に虚偽の記入をした場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがあります。
- (4) 出願書類及び検定料は、事由のいかんにかかわらず返還しません。出願後の出願取下げ及び出願書類の変更は認めません。
- (5) 窓口での受付時間は、9時～12時30分及び14時～16時30分までとします(土・日・祝日除く)。
- (6) 郵送による出願書類は、出願期間中に到着したものに限り受け付けます。
- (7) 出願書類の受理の通知はしません。ただし、通知を希望する場合は、郵便番号、住所及び氏名を記入した郵便はがきを同封してください。

5 選抜方法

- ・一般選抜:筆記試験(専門科目)、面接試験、外部英語試験の結果、成績証明書及び志願理由書を総合して選考します。
- ・社会人特別選抜:筆記試験(専門科目)、面接試験、外部英語試験の結果、成績証明書及び志願理由書を総合して選考します。
- ・外国人留学生特別選抜:筆記試験(専門科目)、面接試験、外部英語試験の結果、成績証明書及び志願理由書を総合して選考します。
*専門科目は、志望する各専攻分野を受験してください。

6 試験期日・時間

・試験期日 **令和5年7月7日(金)**

・試験時間

| 区分 | 試験科目 | 時間 |
|------|------|-------------|
| 筆記試験 | 専門科目 | 10:00～11:00 |
| 面接試験 | | 13:30～ |

7 試験場

仙台市青葉区星陵町4番1号 東北大学大学院歯学研究科
(詳細は、TAOシステムによる受験票交付のときに指示します。)

8 合格者発表

令和5年7月20日(木) 午前10時(予定)

合格者の受験番号を本研究科ホームページに掲載します(<http://www.dent.tohoku.ac.jp/>)。
また、合格者には合格通知書を送付します。

9 その他

(1)個人情報の取扱いについて

- ① 本学が保有する個人情報は、「個人情報の保護に関する法律(平成15年法律第57号)」等の法令を遵守するとともに、「国立大学法人東北大学個人情報保護規程」等本学の関係規程に基づき厳密に取り扱い、個人情報保護に万全を期しています。
- ② 入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学者の選抜、入学手続、入学前教育、追跡調査等、入学後の学生支援関係(奨学・授業料免除及び健康管理等)、修学指導等の教育目的及び授業料徴収等の関係、並びに調査・研究(入試の改善や志望動向の調査・分析等。入学者については、入学後の個人情報と併せて分析することを含みます。)に利用します。
- ③ 入試・教務関係の業務については、本学から業務委託を受けた業者(以下「受託業者」という。)が行うことがあります。業務委託に当たって個人情報の全部又は一部を受託業者に提供する場合には、「国立大学法人東北大学個人情報保護規程」等本学の関係規程に基づき適切な取扱いがなされるよう、必要な措置を講じます。

(2)教育・学習データ利活用について

本学では、教育・学習活動において情報システム等に蓄積された個人情報を含むデータ(以下、「教育・学習データ」という。)を最新のデータ解析やAI技術を用いて分析し、エビデンスに基づいた教育を実施していくことが重要と考えています。

そのため、「教育・学習データ利活用宣言」、「東北大学教育・学習データ取扱8原則」、「教育・学習データ利活用ポリシー」を定め、教育・学習データを有効かつ適正に利活用し、本学における教育・学習支援の充実・改善を図るとともに国民と人類の福利に貢献していきます。

入学者選抜に用いた試験成績等の個人情報は、入学後、教育・学習データに統合して取り扱います。

URL : <https://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/education/08/education0801/>

(3)受験及び修学上の配慮を必要とする者の受験・修学相談について

受験上の配慮及び修学上の配慮を必要とする者は、次の事項を記載した申請書(様式は定めない)を提出し、相談してください。

なお、本研究科の入学試験においては、申請書の提出を理由として、合否判定の際に不利に取り扱われることはありません。

ア 相談の時期 原則として出願資格審査申請受付期間とします。

イ 申請書の記載内容

- ①志願者の氏名、住所(連絡先電話番号も記載してください。)
- ②出身大学等名
- ③受験上配慮措置を希望する事項
- ④修学上配慮を希望する事項
- ⑤出身大学等でとられていた配慮措置
- ⑥日常生活の状況
- ⑦その他参考になる資料(現に治療中の者は、医師の診断書を添付してください。)

(4)入学試験の成績開示について

入学試験の成績開示を求める場合は、受験者本人が、合格発表日から1か月(1か月後が土日・祝日の場合は、直前の平日)までに、所定の申請書及び受験票原本(コピー不可)を本研究科教務係へ提出してください。なお、成績開示は不合格者のみ対象となります。

(5)入学試験について不明な点は、本研究科教務係に照会してください。なお、郵便で照会する場合は、返信用封筒(宛名明記・切手貼付)を同封してください。

東北大学大学院歯学研究科

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

TEL 022-717-8248

FAX 022-717-8279

e-mail : den-kyom@grp.tohoku.ac.jp

(東北大学歯学部・歯学研究科教務係)

この募集要項・入学案内は、以下のウェブサイトでも見ることができます。

URL : <http://www.dent.tohoku.ac.jp/examinate/graduate/>

東北大学大学院歯学研究科(博士課程)

入学案内

1 カリキュラム・ポリシー(教育方針)

歯学研究科では、ディプロマポリシーで示した目標を学生が達成できるよう、以下の方針に基づき教育課程を編成・実施します。

- ① 歯学研究に必要な専門科目および学際的科目を提供することで、歯学・歯科医療・口腔保健についての豊かな学識とそれに基づく論文作成を通して、専門分野および異分野融合領域に関する高度な知識、技能の獲得を促進します。
- ② 研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会、および国内外で最先端の研究成果を学び、発信する場を提供します。
- ③ 学修成果については、シラバスに記載した到達目標を試験やレポート等の手段により確認し評価します。博士論文については、独創的な視野に立って先端的研究に貢献をなし、自立した研究者としての研究活動又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有しているかを最終試験も含めて評価します。

2 ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)

歯学研究科では、所定の期間在学し、歯学研究科の教育理念及び教育目標に沿って設定された授業科目を履修して、所定の単位以上を修得し、以下の知識と能力を身につけた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格した学生に対して博士の学位を授与します。

- ① 豊かな学識と高度な専門的知識・技能に基づいて、歯学分野において自立して独創的かつ学際的な研究を完遂できる能力を有すること。
- ② 社会的・学問的課題を探究し、歯学のリーダーとして独自の発想や高い倫理と責任をもって次世代研究を推進し、社会および学問の発展に貢献できること。
- ③ 国際的視野と高度なコミュニケーション能力を有し、世界水準の研究成果を発信し、それによって国内外における歯学研究を先導できること。

3 長期履修学生制度について

本研究科では、職業を有している等の事情(注1)によって、標準修業年限である4年を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、修了する(注2)ことを願い出た者については、審査の上、これを許可することがあります。この制度の適用者は「長期履修学生」といい、当該学生の授業料総支払額は、標準修業年限による修了者と同額になります。

この制度の適用を希望する場合は、入学手続の際に本研究科教務係へ申し出てください。

(注1)職業を有する者の他、出産・育児、介護等を行う必要のある者等、本研究科が適当と認める者。

(注2)在学年限は8年を超えることはできません。ただし、許可された修業年限の短縮を願い出ることはできます。

4 入学手続、オリエンテーションについて

入学手続は令和5年9月下旬までに手続きいただくことを予定しています。詳細は選考結果を送付する際に文書で通知します。

5 必要経費

| | |
|---------|---------------|
| 入学料 | 282,000円（予定額） |
| 授業料(年額) | 535,800円（予定額） |

入学料及び授業料の納付期日、納付方法等については、選考結果を送付する際に文書で通知します。なお、上記の納付金額は予定額であり、納付金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納付金額が適用されます。

また、本学大学院修士課程、博士課程前期2年の課程又は専門職学位課程を令和5年9月に修了する者は、入学料の納付は不要です。

6 入学料免除、授業料免除

経済的理由により、入学料・授業料を納付することが著しく困難であると認められ、かつ、学業成績が優秀であると認められる者に対しては、その願い出により、入学料・授業料の免除の額(全免、半免、3分の1、3分の2)を免除することがあります。入学料・授業料の免除及び徴収猶予については、下記ウェブサイトを参照してください。また、入学手続に関する通知でもお知らせします。

【入学料及び授業料等免除について】

<http://www2.he.tohoku.ac.jp/menjo/>

7 奨学金制度(日本学生支援機構、その他)

日本学生支援機構奨学金 貸与月額 122,000円(令和4年度入学者第一種奨学金貸与月額)

日本学生支援機構の推薦基準に基づき、人物、健康、学力、家計について審査し、適格者を推薦します。その他、各種財団、都道府県等の奨学金は、募集の都度、掲示により周知します。

8 学生教育研究災害傷害保険(学研災)、医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)

東北大学で全学生に加入を義務付けている保険で、実習や講義、通学、課外活動中の怪我に係る治療費の給付や、他人にケガを負わせたり、器機を損壊した場合の保障がされます。

保険料は、2種類の保険をあわせて4年分で5,370円(令和4年度)です。

専攻分野の主な研究内容(博士)

※出願前に必ず志望分野教授に連絡を取ってください。

※各分野への連絡先は東北大学歯学研究科ウェブサイト「各講座・研究分野一覧」を参照してください。

| 講座名 | 専攻分野名・教授名 | 主な研究内容 |
|---|------------------|--|
| エ コ ロ ジ ー 歯 学 講 座 | 口腔生化学 高橋 信博 | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔微生物生態系(口腔マイクロバイオーーム)のゲノミクス、プロテオミクス、メタボロミクス ・嫌気実験システムを用いた種々の口腔細菌の代謝に関する生化学的・分子生物学的研究 ・口腔細菌の代謝と全身・口腔の健康及び疾患との関連性 ・フッ化物、糖アルコール、茶カテキンなど齲蝕・歯周病予防効果を持つ物質に関する生化学的研究 ・トランジスタ微小pH電極テレメトリー法による食品や甘味料の齲蝕誘発性評価 ・口腔マイクロバイオーームによる歯科用バイオマテリアルの生物学的劣化に関する生化学的研究 ・口腔がん細胞を含む宿主細胞の代謝研究 |
| | 口腔微生物学 | |
| | 口腔分子制御学 菅原 俊二 | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔粘膜での免疫制御機構 ・金属アレルギーの発症機序 ・唾液腺疾患の分子構造 ・ピオチンによる炎症制御機構 ・ヒスタミンの免疫・生理作用 ・口腔感染症における慢性アレルギー炎症に関する研究 ・口腔感染症における上皮バリア破綻に関する研究 ・口腔常在細菌叢による口腔粘膜ホメオスタシス制御に関する研究 ・菌体成分による自然免疫応答に関する研究 |
| | 歯内歯周治療学 山田 聡 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯内・歯周疾患発症機構の分子生物学的解析 ・歯内・歯周疾患の客観的病態診断法の開発 ・生理活性物質および成長因子を応用した歯内・歯周療法の開発 ・歯内・歯周疾患と全身状態の相互作用に関する研究 ・レーザーの歯内・歯周療法への応用に関する研究 ・歯周組織再生のための新規スキャフォールドの開発 |
| | 歯科保存学 齋藤 正寛 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯の再生機構に関する研究 ・歯根膜形成機構に関する研究 ・循環器疾患と保存治療に関する研究 ・細胞移植治療に関する研究 ・抗炎症作用を有する歯科材料の開発 |

| 講座名 | 専攻分野名・教授名 | 主な研究内容 |
|------------|--------------------|---|
| 地域共生社会歯学講座 | 国際歯科保健学 小坂 健 | <ul style="list-style-type: none"> ・保健医療・行政データを用いた保健医療の効果の評価に関する研究 ・ビッグデータを用いた社会経済的な要因の健康に対する影響の疫学研究 ・口腔と全身の健康との関連についての研究 |
| | 歯科法医情報学 (兼)小坂 健 | <ul style="list-style-type: none"> ・発掘人骨の形態学的研究 ・法医学的個人識別における歯科情報の適用 ・大規模災害時の検案支援とマネージメント ・日本人の歯の形態学的研究 ・哺乳類の歯の比較形態学的研究 |
| | 予防歯科学 小関 健由 | <ul style="list-style-type: none"> ・がん治療に関わる口腔有害事象・口腔粘膜炎の予防と治療 ・周術期等口腔管理における患者意識調査 ・舌密封小線源治療における防護装置に関する研究 ・乳癌患者の骨転移・骨関連事象に関する呼気・口腔環境の解析 ・COVID-19の口腔への影響 ・初期齲蝕の評価方法と予防に関する研究 ・歯科臨床技能の収録と評価法の開発 |
| | 小児発達歯科学 福本 敏 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯の発生に関わる新規分子の同定とその機能に関する研究 ・エナメル質形成に関する研究 ・口腔疾患遺伝子の同定とその機能に関する研究 ・歯および唾液腺の組織工学的再生に関する研究 ・幹細胞を用いた疾患発症メカニズムの解明と治療法の開発 ・新しい齲蝕予防に関わる材料開発と評価 |
| | 頭蓋顔面先天異常学 五十嵐 薫 | <ul style="list-style-type: none"> ・口唇裂・口蓋裂などの頭蓋顔面先天異常の診断と治療に関する研究 ・破骨細胞形成における免疫系細胞の役割に関する研究 ・口唇裂・口蓋裂児の成長と発達に関する研究 ・体性感覚誘発磁界を用いた口腔感覚の客観的評価 ・抗炎症作用と骨形成作用を併せ持つ新規ビスフォスフォネートの開発 |
| | 顎口腔矯正学 溝口 到 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯科矯正用アンカースクリューを用いた矯正歯科治療法の開発 ・矯正歯科治療のアウトカムの評価 ・不正咬合と顎口腔機能に関する研究 ・外科的矯正治療の三次元シミュレーション法の開発 ・矯正学的歯の移動の分子生物学的メカニズムの解明 ・顎顔面の発生の分子生物学的メカニズムの解明 ・骨細胞、歯根膜細胞、軟骨細胞のメカニカルストレス応答機構の解明 ・理学的刺激による矯正学的歯の移動促進方法の開発 ・顎関節のメカニカルストレスに対する反応性の分子生物学的メカニズムの解明 ・歯科矯正用医用材料の開発 ・内軟骨性骨形成の制御機構の解明 ・関節荷重が顎関節の細胞外基質の発現に及ぼす影響に関する研究 |

| 講座名 | 専攻分野名・教授名 | 主な研究内容 |
|--------------|---------------------|--|
| 病態マネジメント歯学講座 | 口腔生理学 中井 淳一 | <ul style="list-style-type: none"> ・知覚神経系や運動神経系に関する神経回路機能の研究 ・味覚受容や舌の脂質感受性に関する心理物理学的・疫学的研究 ・神経細胞や骨芽細胞の分化・再生・細胞死の制御に関する分子生物学的研究 |
| | 歯科薬理学 若森 実 | <ul style="list-style-type: none"> ・Ca²⁺透過型陽イオンチャネルの機能解析 ・味覚、痛覚、触覚の分子神経生物学的研究 ・骨と歯の発生と形態形成 ・低分子化合物を用いた幹細胞研究と再生医療 |
| | 口腔病理学 熊本 裕行 | <ul style="list-style-type: none"> ・顎骨疾患に関する分子病理学的研究 ・歯の発育異常に関する臨床病理学および遺伝学的研究 ・口腔免疫疾患・口腔癌に関する臨床病理学および免疫組織化学的研究 ・生体材料を用いた再生医療に関する研究 |
| | 歯科医用情報学 飯久保 正弘 | <ul style="list-style-type: none"> ・新規医療機器の開発 ・頭頸部病変の画像診断に関する研究 ・全身疾患と口腔症状に関する研究 |
| | 顎顔面口腔再建外科学 山内 健介 | <ul style="list-style-type: none"> ・骨形態構築機序と骨形態修復過程の分子生物学的な解析 ・骨折治癒過程を応用した骨再生誘導法の開発 ・顎変形症治療での先進医療器機を応用した新規医療技術の開発 ・外傷・顎関節疾患に対する分子生物学的な解析から低侵襲外科療法への応用 ・遠隔医療・コンピューター支援下手術による未来型口腔外科医療の展開 |
| | 顎顔面口腔腫瘍外科学 杉浦 剛 | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔癌の早期発見法、バイオマーカーの開発 ・AIを用いた口腔癌診断法の開発 ・口腔癌の制御に関する研究 ・口腔癌循環癌細胞の研究 ・口腔癌の遺伝子異常の解析 ・口腔癌の誘因となる口腔細菌叢の研究 ・多臓器の癌の誘因となる口腔細菌叢の研究 ・口腔癌の新規治療法の開発 ・口腔癌の外科的再建治療に関する研究 |
| | 歯科口腔麻酔学 水田 健太郎 | <ul style="list-style-type: none"> ・G蛋白質共役型受容体を介した気管支喘息・COPD病態制御機構の解明 ・概日リズムによる気管支喘息増悪機構の解明 ・味覚受容体を介した気管支喘息病態制御機構の解明 ・in vivo イメージングによる口腔顔面痛発症機構の解明 ・AIによるロボット麻酔システムの開発 ・AIによる周術期管理に関する研究 ・制御性T細胞増強法の開発とヒスタミン産生制御機構の解明 ・麻酔薬が細胞内代謝機構に与える影響の解明 |
| | 総合歯科診療部 菊池 雅彦 | <ul style="list-style-type: none"> ・歯根膜細胞を応用した歯周組織再生に関する研究 ・歯の欠損や歯周病と全身疾患との関連性に関する研究 ・歯痛のサーカディアンリズムに関する研究 ・高齢者の口腔衛生と口腔内微生物に関する研究 ・プライマリケアにおける効率的な治療法の開発 |

| 講座名 | 専攻分野名・教授名 | 主な研究内容 |
|--------------------|----------------------|--|
| リハビリテーション歯学講座 | 口腔器官解剖学 (兼)小坂 健 | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔および顔面領域の肉眼解剖学的研究 ・口腔顔面領域における痛みの伝達機構に関する研究 ・嚥下に関わる咽頭及びその周囲構造の神経支配に関する研究 |
| | 顎口腔組織発生学 笹野 泰之 | <ul style="list-style-type: none"> ・骨と歯の発生及び修復機構 ・硬組織における石灰化の制御機構 ・硬組織細胞外マトリックスのリモデリング ・細胞外マトリックスの硬組織細胞分化における制御機構 |
| | 歯科生体材料学 (兼)鈴木 治 | <ul style="list-style-type: none"> ・新しい歯科用チタン合金の開発と応用の研究 ・歯科用抗菌性合金の研究 ・磁石による維持装置の研究 ・CAD/CAMに適した新しい快削性歯科材料の研究 ・歯科材料の口腔内での劣化と安全性の研究 |
| | 顎口腔機能創建学 鈴木 治 | <ul style="list-style-type: none"> ・骨および歯の再生医・歯学研究 ・細胞分化を制御する三次元細胞培養デバイス開発 ・リン酸八カルシウム(OCP)による骨再生研究 ・骨再生医療のためのドラッグデリバリーシステムの開発 ・バイオマテリアルの生体融合性および表面清浄性に関する研究 |
| | 口腔システム補綴学 (兼)江草 宏 | <ul style="list-style-type: none"> ・生体情報の実測に基づく顎口腔系のバイオメカニクス、メカノバイオロジー ・欠損補綴・インプラント補綴・顎顔面再建における移植・再生・創建に関する研究 ・欠損補綴・インプラント補綴・顎顔面再建における新規バイオマテリアルの開発と応用、機能性インターフェイスの創生に関する研究 ・異分野融合・産学連携による新規歯科医療技術・歯科医療機器の開発とトランスレーショナルリサーチ ・欠損補綴・インプラント補綴・顎顔面再建の臨床アウトカムに関する研究 |
| | 分子・再生歯科補綴学 江草 宏 | <ul style="list-style-type: none"> ・iPS細胞/間葉系幹細胞を基盤とする口腔組織再生技術の開発 ・バイオメテック骨再生材料/インプラント材料の開発 ・歯槽骨吸収における骨免疫学の研究 ・時計遺伝子に着目したオルガノイド研究 ・新規歯周組織再生タンパク質製剤の開発 ・テーラーメイド補綴歯科医療の確立に向けた術前診断法の開発 ・CAD/CAM法を用いたメタルフリー歯冠修復の基礎・臨床的研究 ・歯科用金属アレルギーの基礎・臨床研究 ・支台歯形成を可視化/スコア化したAI評価システムの開発 |
| | 加齢歯科学 服部 佳功 | <ul style="list-style-type: none"> ・大規模コホート研究に基づく歯科口腔保健と全身保健との関連および因果関係の解析 ・多様なモダリティを応用した口腔機能の新規評価方法の開発 ・口腔機能特性とその加齢変化に関する研究 ・高齢者における歯科診療の適応とその評価方法・基準の策定に向けた検討 ・多職種連携に基づく高齢者歯科医療の供給体制に関する検討 |
| リエゾン歯学講座 (協働講座) | 国際連携イノベティブ歯学 洪 光 | <ul style="list-style-type: none"> ・機能性生体材料の開発 ・生体用高分子のレオロジー ・メタルフリー歯科用インプラント材料の開発 ・歯科材料の国際規格の制定 ・ヘルスケア&エデュケーションDXに関する研究開発 |
| | 共創歯学 金高 弘恭 | <ul style="list-style-type: none"> ・医療機器・材料開発に関するトランスレーショナルリサーチ ・産官学民連携によるレギュラトリーサイエンス ・各種医療機器・材料に関する国際・国内ガイドラインの策定 ・異分野融合研究による先端医療機器・材料の開発 ・最新AI技術を応用した医療システムの開発 ・産学官連携による新しい機能性食品開発 ・口腔機能の脳機能学的解析 ・次世代放射光の歯科領域への応用 |

| 講座名 | | 専攻分野名・教授名 | 主な研究内容 |
|--------------------|---------------|---|---|
| 東北メガバンク機構・地域医療支援部門 | | 地域口腔健康科学※ | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の口腔保健支援システムならびにプログラムの構築 ・全身の健康に影響を及ぼす口腔由来健康因子の解明・口腔の健康維持と増進に関連するゲノミクス |
| | 協力講座 | 口腔腫瘍制御学 堀内 久徳 | <ul style="list-style-type: none"> ・低分子量G蛋白質の脂質修飾に関する研究 ・細胞内栄養の感知機構 ・血栓形成メカニズムの基礎的・臨床的研究 ・自然免疫における好中球NE石形成機構 |
| 機能画像歯科学 瀧 靖之 | | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔内環境と脳形態、脳機能との相関 ・口腔内環境と認知症リスクに関する疫学研究 ・生活習慣要因、遺伝要因と脳形態、脳機能との相関 | |
| 協力講座 | 新生物体素材学 | 生体融合素材学※ | <ul style="list-style-type: none"> ・強度、弾力性、保水性等に優れた、自己組織置換型生体融合材料の開発 ・チタンやヒドロキシアパタイトに対し、細胞接着性、組織融合性を高める表面性状加工技術開発 ・細胞親和性と接着性、保水性、保温性、加工性等に優れたハイブリッド人工組織の開発 |
| | | 生体機能素材学※ | <ul style="list-style-type: none"> ・生体機能と調和した人工歯根、人工骨等の生体機能材料の開発 ・生体組織と同等以上の機械的・生物学的性質を持った生体機能材料の開発 ・疾病により欠損した生体機能を補填する高機能材料の開発 |
| | 歯工学生体再生 | 生体再生歯工学※ | <ul style="list-style-type: none"> ・リン酸オクタカルシウム・コラーゲン複合体による骨再生研究 ・骨再生に関連する動物実験モデル作製に関する研究 ・再生骨組織の定量化に関する研究 |
| 連携講座 | 病態制御学 口腔免疫 | 口腔免疫病態制御学 高木 智 | <ul style="list-style-type: none"> ・液性免疫応答の成立と維持機構及びその制御 ・自己抗体産生のメカニズムと自己免疫病態への関与 ・免疫系の修復・再構築制御法の開発 |
| | 長寿口腔科学 | 長寿口腔科学 松下 健二 | <ul style="list-style-type: none"> ・口腔の健康と老年病との関連性に関する研究 ・血管病としての歯周病の病態解析とその制御 ・新規骨代謝関連分子の探索的研究 ・加齢による硬組織の吸収・破壊メカニズムの分子生物学的研究 |

※印が付された分野は、今回は、募集しません。

腫瘍専門歯科医養成コース

悪性腫瘍(がん)は、わが国の死亡原因の第1位であり、2人に1人が罹患し、3人に1人が死亡する時代を迎えました。本コースは、歯科医を対象とした口腔がん医療専門の歯科口腔外科医を養成するコースです。本コースの学生は、がん診療に必要な臨床腫瘍学の総論と各論を系統講義コースで履修し、関連施設および医学部関連各科等で実地臨床経験を積んだ後、論文研究で口腔腫瘍学に関連する論文作成を行うこととなります。詳細は、下記担当教員までお問い合わせください。

| 教授名 | 主な研究内容 |
|----------------------|---|
| 杉浦 剛 (顎顔面口腔腫瘍外科学) | <ul style="list-style-type: none">・口腔癌の早期発見、バイオマーカーの開発・口腔癌の制御に関する研究・口腔癌の遺伝子異常の解析・口腔癌の誘因となる口腔細菌叢の研究・多臓器の癌の誘因となる口腔細菌叢の研究・口腔癌の新規治療法の開発・口腔癌の外科的再建治療に関する研究・Tissue Engineering を応用した顎骨再建に関する研究 |

ダブルディグリー・プログラム

本研究科では、文理異分野連携型・産官学連携型の歯学教育をキーワードとした歯学のイノベーションを通して「アジアスタンダード」に基づく歯学教育研究・歯科医療を確立し、アジアの歯科医療・口腔保健ならびにその技術革新を先導するリーダー人材の養成を目的とした大学院教育プロジェクトとして、中国、韓国、タイの有力歯学系大学院との間でダブルディグリー・プログラム(DDプログラム)を実施しています。

本プログラムでは、1人の大学院生が2つの大学の大学院生となり、在学中に相手校へ一定期間留学し、両校の教員陣による共同教育を行います。条件を満たせば両校からの学位を取得することが可能です。

現在、北京大学口腔医学院(中国)、四川大学華西口腔医学院(中国)、天津医科大学口腔医学院(中国)、武漢大学口腔医学院(中国)、および全南大学校歯医学専門大学院(韓国)、ソウル大学校歯科大学(韓国)、延世大学校歯科大学(韓国)、チュラロンコーン大学歯学部(タイ)、インドネシア大学(インドネシア)と合意がなされています。興味のある方は、本研究科教務係(P.7)までお問い合わせください。